



ただし
正
なぐも
南雲

統合文教施設の内装は湯沢産木材を使い町内建築業者で。

答 総事業費の中で木の利活用を図り、多くの町内建築業者から係ってもらいたい。

問 「内装には積極的に地場産の木を利用し、湯沢らしい暖かい自然な雰囲気の家とする」という大前提と違う方向が見え始めている。自分たちが作りあげた学校、町全体で育てる学校の気運が生まれるように、内装は地場産木材を使い、町内建築業者による施工の実現を確認し、町内業者が各種工事に係ることができるよう、に瑕疵担保保証条件等の緩和を願いたい。

答 内装には地元産の木を多く使いたい旨の申し出をしている。総事業費41億円の中で可能な限り木の利活用を図りたい。地域経済活性化の観点から町内建築業者からも何らかの形で係ってもらいたい。契約が高額で長期にわたることから安心、安全な施工のため瑕疵担保保証は要請したい。

問 既に大手を代表とするJVへの発注が有力であるという情報もあるが、内装は地場産木材を使い、町内建築業者施工の条件と瑕疵担保保証を大手に付加する条件を付けてほしい。

答 入札情報は私からは出していない。入札条件で内装に関して地元建築業者を入れる件と瑕疵担保保証の大手負担は私の想いで充分言わせてもらう。

高額化した町長、副町長等特別職給与の減額を。

答 特別職の給与を人口と産業構造が類似する他団体にあわせ減額予定である。

問 特別職の給与が平成8年から改正されていないため、職員の最高給料に対して町長が179%、副町長が145%、と高額化している。条例では報酬審議会の答申を受け決めることとなっているが、社会情勢を踏まえて町長が職員の最高給料の150%、副町長120%、教育長120%、議員50%とする新しいルールを作り、職員の給料の変動に合わせて連動させてはどうか。町長、副町長だけが高額になっているが、教育長、議員は現状が提案額と同等である。

答 職員の最高給料に連動する給与体系の提案は真摯に受け止めさせてもらう。報酬審議会からの答申を尊重し、町長の給料を4・7%減額72万3千円、副町長の給料を3・1%減額59万5千円にする予定であり、期末手当の支給額を2・9か月に引き下げる。

川上四郎と全国童画展作品を中心とした童画文化の発信を。

答 温泉街の民俗資料館「雪国館」を童画の拠点施設としたい。

問 童画の持つ高い芸術性が注目され、川上四郎も参画した大正昭和の絵雑誌「コドモノクニ」が復刻され、繊細な色使いや手書きの温かな魅力が、若い子育て世代にも注目されている。大学の美術館では原画展も開催され、全国展開からパリにも遠征する計画だという。この動きに遅れることなく童画文化の先駆者として「童画の町湯沢」を全国に発信するため、駅東側に童画の拠点施設整備を検討し、駅から観光客が外に出て湯沢の風を感じてもらおう環境整備に繋げ、童画文化を生かした地域活性化への道を探るべきではないか。

答 地域経済や財政状況、将来のリスク、地域の活性化を総合的に考え、雪国館を増築して童画文化の発信拠点とすることが一番現実的だと考えている。

湯沢の小河川を生かし、小水力発電の導入を。

答 国の補助制度等を活用して調査を実施したい。

問 福島原発事故以来、全国的に自然エネルギー開発の動きが高まり、新たな開発には国の補助制度が考えられている。水源の町として町内に存在する多くの小河川、農業用水を活用した小水力発電導入に向けた調査を行い、統合文教施設や公共施設のエネルギーとしての活用を考えてほしい。コスト問題だけで議論することなく地域再生という観点から「地域でつくったエネルギーは地域で使う、エネルギーの地産地消」を目指すまちづくりを検討する必要があると思うが見解を伺いたい。

答 エネルギーの地産地消はこれからの町づくりの新たな課題と認識している。今年度、総務省の小水力発電事業調査の提案候補に応募したが不採択になった。今後も国の補助制度等を活用して調査の実施ができるように努める。新たな学校施設に小水力発電の模型でも良いから対応したいのが町長としての想いである。